

県民健康調査における甲状腺検查出張検査関係業務委託（学校）仕様書

1 目 的

公立大学法人福島県立医科大学（以下「福島医大」という。）が以下の市町村等において実施する県民健康調査に係る甲状腺検査（以下「検査」という。）を円滑に運営する。

（1）対象市町村

原則として会津若松市、いわき市、須賀川市、喜多方市、相馬市、鏡石町、南会津町、下郷町、檜枝岐村、只見町、北塩原村、西会津町、磐梯町、猪苗代町、会津坂下町、湯川村、柳津町、会津美里町、三島町、金山町、昭和村、中島村、矢吹町、棚倉町、矢祭町、塙町、鮫川村、石川町、玉川村、平田村、浅川町、古殿町、小野町、新地町の34市町村

（2）対象学校

市町村立学校99校、県立学校52校、国立又は私立学校14校の、合わせて165校の予定

2 検査日等

（1）検査日

令和8年4月1日～令和9年3月31日のうち、福島医大が指定する日とする。

（原則として土・日・祝日及び12月29日～1月3日を除く日のうち160日間程度の予定）

（2）検査時間

概ね午前9時30分からとするが、各学校の都合に合わせるものとする。

なお、終了時刻は対象者の数や検査体制により一定とはならないこと。

また、定時制高校などは、夜間の実施になることもある。

3 用語の定義

本仕様書で使用する用語の意義は、次の各項に定めるところによる。

（1）「消耗品等」とは以下に掲げる検査時等に使用する主な物品のことをいう。

① 受 付 関 係：文房具、検査レポート用紙（指定）、プリンタートナー等

② 検 査 関 係：文房具、超音波検査用ゼリー、使い捨てシート、ガーゼ、バスタオル（定期的にクリーニングをした清潔なものを使用するものとする。）、ゴミ袋、ティッシュペーパー、ウェットティッシュ、消毒剤、使い捨てマスク、養生テープ、検者用ミネラルウォーター、遮光用暗幕、フロアシート、ジェットヒーター・ストーブ（燃料代含む）

③ そ の 他：上記の他必要となる物品

（2）「消耗備品等」とは以下に掲げる検査時に使用する備品のうち、福島医大所有のものをいう。

簡易ベッド、パーテーション、検者用の机及び椅子、プリンター、スリッパ、扇風機、ジェルウォーマー、ジュラルミンケース、その他消耗品等

（3）「検者」とは、検査に携わる医師及び医療技師のことをいう。

（4）「検査レポート」とは、検査の結果（「のう胞」、「結節」の有無、大きさ等）を記載する記録用紙のことをいう。

（5）「検査同意確認書兼問診票」とは、対象者の受診に関する意思及び現在の健康状態、既往歴

等を確認する用紙のことをいう。

4 業務内容等

- (1) 検査会場等設営・撤収業務（学校）（詳細「別紙１－１」）
- (2) 人員搬送等業務（学校）（詳細「別紙１－２」）
- (3) 健診車保管・管理運営業務（学校）（詳細「別紙１－３」）
- (4) 検査会場等管理運営業務（学校）（詳細「別紙１－４」）
- (5) 受付業務（学校）（詳細「別紙１－５」）
- (6) 検査準備・検査機器等撤収業務（学校）（詳細「別紙１－６」）
- (7) 検査誘導・説明業務（学校）（詳細「別紙１－７」）
- (8) 検査同意確認書兼問診票・検査レポート確認業務（学校）（詳細「別紙１－８」）
- (9) 介助業務（学校）（詳細「別紙１－９」）
- (10) 物品管理、検査機器等管理・運搬業務（学校）（詳細「別紙１－１０」）
- (11) 学校訪問業務（学校）（詳細「別紙１－１１」）
- (12) 業務調整・管理運営業務（学校）（詳細「別紙１－１２」）
- (13) 甲状腺超音波検査業務（学校）（詳細「別紙１－１３」）

5 業務報告

受託者は、契約書第6条に基づき委託業務の成果等について、毎月業務状況を報告するものとする。

6 留意事項

- (1) 各業務の兼務について

検査を適切に実施するため、別表のうちバツ印（×）が付されている業務は同一日に同一人物が兼務することはできない。ただし、やむを得ないと福島医大が認めた場合は、兼務可能とする。

なお、別表のうち丸印（○）が付された業務については兼務可能とする。ただし、各業務遂行に必要な人員を確保したうえで、どちらか一方が滞ることのないよう業務を遂行するものとする。

- (2) 業務従事者の服装

職務内容にふさわしい服装とし、特に検査会場においては、対象者に安心感や親近感を与えるような清潔・衛生的な服装を常に心掛けるものとする。

7 受託者が遵守すべき事

- (1) 受託者は業務従事者に対し、通常健康診断とは異なる検査の目的及び特質に関する理解の徹底を図り、十分な心構えで従事するよう指導・教育を行うものとする。
- (2) 受託者は業務従事者に対し、コンプライアンス意識の徹底を図り、セクハラ、パワハラ等の受診者に不快感を与える言動の防止に努めるものとする。
- (3) 受託者は検査の実施に当たり、不測の事態等問題が生じた場合は、速やかに福島医大までその旨報告するものとする。
- (4) 受託者は業務従事者に対し、常に丁寧な接遇を心がけ、誠実かつ厳正に業務に当たるよう指導・監督を行うものとする。
- (5) 受託者は業務従事者に対し、常に清潔な服装、整容及び手洗い・うがい等を励行させるこ

とで感染症の防止に留意しなければならない。また、検査に際し、業務従事者が吐き気・嘔吐・下痢・発熱等の症状を発した場合は検査業務に就業させず、その旨を福島医大に連絡するものとする。

併せて、新型コロナウイルス感染症についても福島医大の指示のもと、十分な対策を取るものとする。

(6) 業務従事者は、検査会場等において常に身分証明書（名札等）を身につけるものとする。

(7) 業務従事者の福利厚生に関わる諸経費は、すべて受託者の負担とする。

8 その他

本仕様書に定めのない事項については、福島医大と協議の上定めるものとする。

(別表)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1	検査会場等設営・撤収業務		○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×
2	人員搬送等業務	○		×	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×
3	健診車保管・管理運営業務	○	×		○	○	○	○	○	○	○	×	×	×
4	検査会場等管理運営業務	×	×	○		×	×	×	×	×	○	×	×	×
5	受付業務	○	×	○	×		○	×	○	×	○	×	×	×
6	検査準備 ・検査機器等撤収業務	○	○	○	×	○		○	○	○	○	×	×	×
7	検査誘導・説明業務	○	×	○	×	×	○		○	×	○	×	×	×
8	検査同意確認書兼問診票 ・検査レポート確認業務	○	×	○	×	○	○	○		○	○	×	×	×
9	介助業務	○	×	○	×	×	○	×	○		○	×	×	×
10	物品管理、検査機器等管理・運搬業務	○	○	○	○	○	○	○	○	○		×	×	×
11	学校訪問業務	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×	×
12	業務調整・管理運営業務	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		×
13	甲状腺超音波検査業務	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

※表中の番号は「4 業務内容等」の番号を指す。

別紙 1－1

(1) 検査会場等設営・撤収業務（学校）

① 業務内容

検査ブースの物品（検者用机、椅子、簡易ベッド、パーテーション等）を検査会場へ搬送し、検査会場内に検査ブースや、受付用机、椅子、待合い等の設営を行うものとする。

また、検査終了後は撤収及び原状回復（椅子や机等を検査ブース等設置前の状況に戻す作業）を行うものとする。

なお、検査会場のレイアウトについては、事前に福島医大に報告し、了解を得なければならない。

② 必要人数

1日につき6名程度を基本とすること。検査の実施状況に応じて人員に変更が必要となる場合は別途協議を行うものとする。

③ 留意事項

ア 検査会場の設営に際し、会場内の設備等を損傷することのないよう注意するものとする。万が一、破損した場合の費用は受託者の負担によるものとする。

イ 冬期間においては、降雪や車道の路面凍結等を勘案し、冬期対応の車両装備（タイヤチェーン等）を備えておくとともに、渋滞や通行止め等の道路情報を把握し、設営や運搬に支障が生じないように心掛けるものとする。

別紙 1－2

(2) 人員搬送等業務（学校）

① 業務内容

検者について、福島医大、宿泊場所、駅及び検査会場間の人員搬送等業務を行うものとする。

なお、搬送に使用する車両は完全禁煙車を使用すること。（喫煙実績のある車両を、禁煙車として使用する運用は認められない。）また、車両については乗車に際し一定の快適性を確保できるものとし、さらに、下記ア～クまでの項目のいずれかに該当し、検者が不快と感じる車両を使用している場合は、その状態を改善するものとし、改善が困難な場合は車両を変更するものとする。

ア 異音・雑音・振動・ギアチェンジ時の過大なノッキング

イ 不衛生な車内状態

ウ タバコ臭等の悪臭

エ ゴミの散乱

オ 過大なエンジン音

カ サスペンションの不良

キ 車内装備の故障

ク 過剰な芳香剤の使用

② 搬送人員数

検査 1 日当たり、原則として 1～10 名程度とすること。

③ 高速道路の利用及び利用料金

ア 検査会場への移動については、基本的に高速道路を利用するものとし、利用区間については、適切な区間を福島医大と適宜協議・確認すること。

イ 利用料金については、福島医大の負担とするものとし、その利用料金について、毎月、精算を行い福島医大から受託者に支払うものとする。よって、委託契約額には含めないものとする。

④ 留意事項

ア 乗務員は検者の指示・要望に対し誠実に対応するものとする。

イ 福島医大の指示により場合によっては、検者の搬送だけではなく、物品等のみの搬送についても対応すること。

ウ 搬送に使用する車両は、カーナビゲーションシステムと ETC 車載器を備えたものとする。

エ 乗務員は、事前に検査の場所等を十分に確認・把握しておくとともに、渋滞の状況なども勘案し、検査会場まで最適かつ短時間で移動できるルートで運行するものとする。

オ 受託者は乗務員に対し、運行に際して道路交通法（昭和 35 年 6 月 25 日法律第 105 号）を遵守するよう指導すること。

カ 福島医大が、上記①の条件を満たしていないと判断し、かつ受託者が改善や指示に従

わない場合は、契約を解除することができるものとする。

キ 冬期間においては、冬期用の装備（スタッドレスタイヤ装着等）とするとともに、降雪や車道の路面凍結等を勘案し、冬期用の車両装備（タイヤチェーン等）を備え、搬送に支障が生じないように心掛けるものとする。

ク 検査会場等管理運営業務者は、乗務員が往復の運転に支障をきたさない様に検査会場等での業務の割振りに配慮するものとする。

別紙 1－3

(3) 健診車保管・管理運営業務（学校）

① 業務内容

福島医大が管理する健診車 4 台について、検査会場までの運行及び安全保守管理を行うものとする。

② 健診車運行ヶ所数（学校）

年 5 3 ヶ所程度

③ 車検及び修理、燃料等の費用負担

ア 車検については、福島医大が実施し費用を負担するものとする。よって、契約額には車検費用は含めないこと。

イ 車両の不具合等の修理費用については、原則として福島医大の負担とするが、受託者の責めに帰する事由により車両に損害があったと認められる場合の修理費用は受託者が負担するものとする。

ウ 受託者はタイヤの保管を行うとともに、その費用が発生する場合は受託者の負担としその経費は契約額に含めるものとする。

エ 車両の燃料費については受託者の負担とし、その経費は契約額に含めるものとする。

④ 留意事項

ア 健診車内での喫煙は行わないこと。

イ 健診車の整備及び清掃を定期的実施するものとし、また、運行しない期間についても定期的にバッテリーやタイヤの状況などの点検等を行い、業務の履行に支障が生じないようにしなければならない。

別紙 1－4

(4) 検査会場等管理運営業務（学校）

① 業務内容

仕様書の 4 (1) ～ (3)、(5) ～ (10) までの業務に関し、検査会場において福島医大や検者との総合的な調整及び管理運営業務を行うものとする。

具体的には、下記のア～コのとおりとし、専ら各業務従事者への指示・関係者との調整等を行うものとし、検査会場等の業務遂行が滞ることのないようにしなければならない。

特に、検者に対しては、検査の進行状況や諸対応の報告・相談を随時行うものとする。

ア 検査会場設営・撤収関係の諸指示

イ ミーティングの運営

ウ 検査レポート等の確認業務の諸指示

エ 学校関係者との調整・打合せ

オ 検者との業務調整・打合せ・相談

カ タイムスケジュールの管理・調整

キ 検者の搬送手段手配・調整

ク 諸事象への対応・相談・報告

ケ 検査開始・終了の連絡

コ 業務終了後の結果復命書の作成

② 報告

上記①コに規定する結果復命書を速やかに作成したのち、原則として翌日中に書面（又は電子データ）にて福島医大に報告するものとする。

③ 必要人数

1カ所につき1名とする。

別紙 1－5

(5) 受付業務（学校）

① 業務内容

検査同意確認書兼問診票の提出状況その他検査に際しての必要事項が確認できていない対象者について、その確認のため設置される受付（以下「確認デスク」という。）による手続のことをいう。

確認デスクの具体的な業務の流れについては、以下のとおりとする。

- ア 受付業務に必要な物品をコンテナ等から搬出し、確認デスクの設営を行う。
- イ 検査レポートに身長・体重が記載されていない対象者又は検査レポートが配付されない生徒について確認デスクに誘導し、必要事項を確認すること。
- ウ 必要に応じて、身長・体重の転記又は測定を行い検査に際して確認不足が生じないように対応するものとする。

② 必要人数

1カ所につき2名程度とすること。

③ 業務従事者の条件

- ア 基本的なパソコン等の操作が可能であること。
- イ パソコンの利用に当たって、生体認証の事前登録を福島医大にて行うこと。
- ウ 一定のコミュニケーションスキルを有すること。
- エ 検査に対し真摯な心構えで臨めること。

別紙 1－6

（６）検査準備・検査機器等撤収業務（学校）

① 業務内容

ア 到着後の準備

- （ア）機材の設置は、最初に受付から開始すること。（受付が必要な検査のみ）
- （イ）検査で使用する机や椅子は、ウェットティッシュ等を用いて清拭しておくこと。
- （ウ）超音波検査機器、パソコン（データサーバ）（以下、「検査機器等」という。）については、所定のマニュアルに沿って準備すること。
- （エ）検査ブース付近の照明の明るさについて、検査前に検者に確認し、適切な明るさ（暗さ）に調整を行うものとする。受付や待合付近は、極力照明の確保に努めるものとする。
- （オ）カーテンのない場所や、遮光が十分でない場所など遮光が必要と思われる場合は、検者と協議・調整し、遮光可能な消耗品（遮光用暗幕や、場合によっては段ボール等）にて遮光作業を行うものとする。
- （カ）各検査ブース内に検者用の飲料水（ペットボトル）を準備しておくものとする。
- （キ）対象者の待合場所等で DVD を投影する準備をすること（医大が指示する場合のみ）。

イ 検査開始

- （ア）午後の検査がある場合は、午後からの検査前に検査ブース周り、机、エコー機、ジェルウォーマー等汚れたものについて清拭し、検査に備えること。
- （イ）検査室内に立ち入る必要がある際は、原則として室内に受診者がいないことを確認の上入室すること。

ウ 昼食及び昼食会場準備・撤収（昼食が必要な場合）

- （ア）福島医大は翌週に予定されている検者の昼食弁当数を受託者側に連絡し、受託者はその連絡を受けた数の昼食用弁当を注文するものとする。
- （イ）昼食代については、現場で受託者が検者から徴収し、注文した相手方に受託者が支払うものとする。
- （ウ）検者用の昼食会場の設営（机の設置・移動や椅子の準備等）及び昼食の準備を行うこと。また、昼食休憩後は、机の並び替えやゴミの収集清掃を行うこと。

エ 検査終了後

欠席した対象者等に対しては、公共施設等又は検査実施機関にて受診が可能であることについて、福島医大が作成したチラシの配布を学校に依頼し受診機会の周知を図るとともに、問い合わせ先については福島医大コールセンターであることを学校側に説明するものとする。

② 留意事項

撤収に際しては、慎重かつ丁寧にこれを行うこと。また、検査機器等を破損・損壊することのないよう心掛けること。

別紙 1－7

(7) 検査誘導・説明業務（学校）

① 業務内容

誘導業務は検査会場において、対象者を適宜検査ブースまで誘導するものとする。

説明業務は、対象者に検査の簡潔な説明及び受診方法を説明するものとする。

当該業務の実施に際しては、以下の点に留意するものとする。

ア 検者の準備が整い次第、検査開始できるよう、開始予定時刻の10分前には対象者への説明を行うこと。

イ 説明が終わるまでは対象者を検査ブースに誘導しないこと。

ウ 説明は明瞭かつ聞き取りやすく行うこと（必要に応じて、ポータブルスピーカー等を使用すること）。

エ 対象者の年代等を考慮し、説明内容を工夫し、わかりやすい説明を心掛けること。

② 必要人数

検査場所1カ所ごとにそれぞれ4名程度とすること（検査ブース数が少ない場合であっても2名は従事すること）。

③ 業務従事者の条件

ア 一定のコミュニケーションスキルを有すること。

イ 検査に対し真摯な心構えで臨めること。

別紙 1－8

(8) 検査同意確認書兼問診票・検査レポート確認業務（学校）

① 業務内容

ア 検査同意確認書兼問診票を受領した場合は、内容に不備がないか確認した上で甲状腺検査受診者情報リストの突合せを実施し、検査に同意しない対象者が受診することのないよう、十分に確認を行わなければならない。

イ 検査に同意しない対象者の検査レポートについては、誤受診を防ぐため必ず検査開始前に回収するものとする。

ウ 検査レポートの身長・体重が未記載の場合は、原則、測定し記載すること。

エ 検査時間の合間に、各検査ブースの検査レポートの「枚数」と「記入漏れ」等について以下の点に留意し確認を行うものとする。

（ア）2人1組で行うことを原則とし、2人でそれぞれ確認事項に誤りがないか確認するものとする。確認した検査レポートについてはジュラルミンケースに収納し、確認事項のあるものについては付箋紙等で目印をつけ、適宜検者に確認するものとする。

（イ）検査終了時は、検査レポートの最終確認を2人1組で行い、集計を行うこと。

（ウ）検査レポートの確認は、検査中は原則として行わないこと。

② 必要人数

1カ所につき2名とすること。

③ 業務従事者の条件

ア 基本的なパソコン等の操作が可能であること。

イ 一定のコミュニケーションスキルを有すること。

ウ 検査に対し真摯な心構えで臨めること。

別紙 1－9

(9) 介助業務（学校）

① 業務内容等

ア 検査準備

- (ア) 介助者は検査ブース内の準備をするものとする（ガーゼの準備など。ミーティング前に行っても差し支えないこと。）。
- (イ) 介助者が担当する検査ブースは、検査開始前にあらかじめ決めておくこと。
- (ウ) 検査は一人ずつ行うものとし、次の順番の受診者に上履きを脱いで待機するよう指示すること。
- (エ) 検査レポートを各自持参することから、検査ブース内に誘導する際必ず氏名及び生年月日を確認し、あわせて身長や体重等の記載もれ等の確認を速やかに行い検者へ手交すること（検査前に検者にレポートを置く位置等の確認をすること。）。
- (オ) 検査は仰臥の態勢で行うことから、適正な位置に横になるよう指示すること。
- (カ) 検査終了後、首に付いたゼリーをガーゼで清拭すること。

イ 片付け

- (ア) 検査ブース毎に介助者が責任をもって片付けを行うものとする。
- (イ) 消耗品等を入れるコンテナに貼付されている片づけ方法の指示書・写真等を参考に整理整頓・収納すること。
- (ウ) 検査ブース内に不足している消耗品等は補充すること。

② 必要人数

1 検査ブースにつき 1 名とすること（1 日の検査ブースは 1 ～ 10 ブースであるが、1 日平均合わせておおむね 5 ブースの範囲内での検査となること）。

③ 業務従事者の条件

- ア 受託者が指導・教育を行い、業務に従事する技能を有していると認められる者であること。
- イ 一定のコミュニケーションスキルを有していること。
- ウ 検査に対し真摯な心構えで臨めること。

④ 留意事項

業務の特殊性に配慮し、従事者の選任を行うこと。

別紙 1－10

(10) 物品管理、検査機器等管理・運搬業務（学校）

① 業務内容

ア 物品管理業務

検査会場で必要となる消耗品等については、仕様や形状、材質等について、福島医大に事前に許可を得た上で受託者が調達・搬送すること。また、使用に当たって発生したゴミ等は、受託者が責任をもって処理しなければならない。

消耗備品等については、無償で利用できるものとする。

使用する際は「別紙 消耗備品等貸出簿」に借用する消耗備品等を記載して福島医大に提出し、受託者が検査会場に搬送するものとする。

なお、借用した消耗備品等が検査中等に破損した場合の費用は、原則として福島医大の負担とするが、搬送中等に受託者の責めに帰する事由により破損した場合の費用は受託者の負担によるものとする。

イ 検査機器等管理・運搬業務

検査機器等及び検査後の検査レポートや検査同意確認書兼問診票等について、福島医大が指定した場所と検査会場との間における管理・運搬を行う。具体的には、次の（ア）及び（イ）のとおり。

（ア）福島医大が指定した場所から検査機器等を搬出し、検査会場まで管理・運搬を行う。

この場合、次の事項に従って搬出するものとする。

- a 搬出する場所は、福島医大 ふくしま いのちと未来のメディカルセンター棟（みらい棟）6階甲状腺検査推進室器材室とする。
- b みらい棟及び検査機器等を保管する部屋に出入りするときは、福島医大が指示する方法でセキュリティの解除・施錠をすること。
- c 検査機器等を保管する部屋以外には入室しないこと。
- d 室内のロッカー等は開閉しないこと。
- e 福島医大が指示する方法により、搬出入を記録すること。
- f 入室することによって知り得た情報は、第三者に漏洩しないこと。

（イ）検査後の検査機器等及び検査レポート（欠席者等の検査レポートも含む）や検査会場で受け取った検査同意確認書兼問診票等については、その日のうちに、検査会場から福島医大が指示した場所へ管理・運搬業務を行い、福島医大の職員に引き継ぐものとする。

② 必要人数

1カ所につき2名以上とすること。何らかの事情による停車時であっても、常に車内には1名以上乗車し、ドアロックした上で管理にあたること。

③ 留意事項

管理・運搬に際し、破損や紛失、盗難等が生じた場合は、速やかに福島医大に報告するものとし、必要に応じ、警察などの関係機関等にも速やかに報告を行わなければならない。

別紙 1－1 1

(1 1) 学校訪問業務（学校）

① 業務内容

ア 事前準備

(ア) 検査の少なくとも1ケ月半前までに検査を予定する学校と連絡調整し、学校訪問計画を作成するものとする。作成した学校訪問計画は、速やかに福島医大に報告すること。なお、次の点に留意すること。

- a 学校別に時間を適切に配分すること。
- b 学校側には、教頭その他、担当教諭にも同席してもらうように依頼すること。
- c 「教育者関係名簿」（福島県教育会館発行）等を参照し、学校の概況（名称、所在地、在籍者数等）を把握し、説明内容や関係資料をあらかじめ準備しておくこと。

イ 学校訪問時の対応

(ア) 事前に学校側のスケジュール等を確認し、学校側の理解と協力を得られるよう懇切かつ丁寧に検査の流れを説明すること。

具体的な留意点は以下のとおり。

- a 検査開始時間、給食時間、午後の検査開始可能時間及び検査終了時間の確認をすること。

→当日のスケジュールや検者の数については、諸状況によって変化することから、**確定事項ではないことを丁寧に説明すること。**

- b 各学年の学級数と在籍者数（特別支援学級を含む）を確認すること。
- c 検査に際しては、のど元を広げやすい服装（ジャージ等）が望ましいことを説明すること。
- d 検査レポートについては、検査直前に教諭から対象者に渡すよう依頼すること（破損を防ぐため）。

また、受診する順（出席番号順）に並べ替えの必要がある場合にはその旨説明のうえ協力を依頼すること。

- e 下校バスを利用している場合には発車時刻等について確認し、検査スケジュールとの調整を図ること。
- f 欠席した対象者については、公共施設等または県内検査実施機関での受診を案内することから、保護者からコールセンターへ問い合わせるよう説明すること。

(イ) 検査ブース設営日時の確認

- a 学校側に設営可能な日時を確認し、決定すること。
- b 検査会場までの導線を念頭に搬出入ルートを確認すること。また、搬出入するトラックが使用する駐車場も確認しておくこと。

(ウ) 検査会場の選定

- a 広さ（縦×横）、方角、検査ブース設置場所、搬入口等について実測し記録すること。検査ブース（3 m×3 m）の増設も念頭に若干の余裕も考慮した会場を検討する

こと。

- b 概況確認のため、会場内の写真を撮影し、「③報告」に利用すること。
- c 検査に当たっては、遮光されていることが要件であることから、窓の位置や遮光カーテンの有無について確認し検査ブースの設置場所を検討すること。
なお、遮光ができない会場については、検査に適さないため別会場の選定を検討すること。
- d 電源（コンセント）や冷暖房の有無についても確認し、学校側に使用についての了解を得ておくこと。
- e 機器の搬出入や担当教諭との連絡調整の利便性も考慮し、適当な空き教室等がなければ体育館の使用も検討すること。ただし、体育館については、冬季の使用や暗幕等の存否など通常の教室等と比して対応すべき点が多いことから慎重に検討すること。

(エ) その他確認事項について

- a 検査当日、私有車で来場する検者の駐車スペースについて確認しておくこと。
- b 検者が昼食を取るための控室を確保し、長机や椅子もあわせて借用するとともに、冷暖房の使用についても事前に確認・申し入れを行うこと。
- c 検査当日のおおよそのスタッフ数を伝えておくこと。
- d 緊急連絡先を伝えておくこと。
- e 検査当日に DVD を投影する学校については、そのための場所や設備等も確認すること（該当する学校がある場合は、福島医大より事前に連絡する）。

ウ 文書印刷業務

福島医大の指示に従い印刷・配布が必要となる文書の印刷を行うものとする。

② 必要人数

1 日当たり 1 名程度とすること。

③ 報告

終了後は、上記 イ「学校訪問時の対応」に示した確認事項を記載した「学校訪問結果」を作成し、検査日の 20 日前までに福島医大に提出すること。

ア 「学校訪問結果」には、電子地図等を利用し駐車場や会場等を記入した地図、写真を添付するものとする。

イ 作成した「学校訪問結果」は電子データ形式で福島医大に提出することとし、保存する際には、「(検査月日) (学校名) (例;4.12〇〇中)」と表示するものとする。

④ 業務従事者の条件

ア 一定のコミュニケーションスキルを有すること。

イ 検査に対し真摯な心構えで臨めること。

別紙 1－12

(12) 業務調整・管理運営業務（学校）

① 業務内容

ア 管理・運営業務

本委託業務に関し、福島医大と総合的な調整窓口業務を行い、全体の管理運営業務を行うものとする。緊急時の連絡は夜間、早朝及び休日の可能性もある。

イ 福島医大との打ち合わせ

検査を適正かつ円滑に実施するため、必要に応じ福島医大と打ち合わせを行うものとする。

② 必要人数

1名を専任とする。

別紙 1－13

(13) 甲状腺超音波検査業務（学校）

① 業務内容

検査機器を用いて超音波検査を実施するものとする。

② 必要人数

1日当たり1～2名、一週間でおおむね延べ6名程度の範囲での従事となる。（実際の従事人数は福島医大の指示による。0人となる週もある）。

③ 検査者の条件

以下に掲げる各項目の、いずれかの要件を満たしている者。

ア 次のいずれかの学会の専門医または専門技師であること。

医師	日本甲状腺学会、日本内分泌外科学会、 日本超音波医学会（甲状腺、体表、総合）※ ¹ 日本内分泌学会（小児科）※ ²
技師	日本超音波医学会認定超音波検査士（体表臓器）

イ 福島県甲状腺検査支援合同委員会認定医師※^{3, 5}であること。

ウ 福島県甲状腺検査支援合同委員会認定技師※^{4, 5}であること。

※¹ 日本超音波医学会において、専門領域（受験コース）に分かれる前に専門医になった医師については、個別に確認するものとする。

※² 日本小児内分泌学会の会員で日本内分泌学会（小児科）の専門医である医師。

※^{3, 4} 福島県甲状腺検査支援合同委員会認定医師、技師とは、（一社）福島県医師会長及び福島県甲状腺検査支援合同委員会委員長の連名の認定証を交付された医師又は技師のことをいう。

※⁵ イ又はウの医師又は技師が検査を実施するためには、福島医大の行う出張検査に3回以上参加し、かつ福島医大において適当と認める者であることを必要とする。